

1 目的

札幌市内の中小企業が、自社の経営課題の解決に向けた取り組みにおいて、ITの利活用を行うために発生する費用の一部を補助することにより、市内中小企業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

札幌市内に本社を有する中小企業者（個人含む）、企業グループ、その他法人
※ただし、IT産業を主たる事業として営む会社及び個人は除きます。

3 補助対象事業

自社の経営課題（自社の商品やサービスの高付加価値化を図る、更なる販路を拡大する、あるいは、業務効率化を図るために自社業務を改善する等）を解決するために、ITの利活用を行う取り組み。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額200万円

5 補助件数

5件（予算1,000万円の範囲内で実施）

※上位5件の補助金額が予算上限に満たなかったことから本年度は7件採択

（平成30年度採択案件）

- ・各システムのデータを統合して経営情報の見える化、作業負担の軽減、経営情報の蓄積を図る取組（株式会社アイチフーズ）
- ・創薬基盤のための化合物構造式自動発生プログラムの構築（株式会社スカイシーファーマ）
- ・複数店舗展開に対応した在庫管理システム（株式会社ハッピーツリー・アンド・カンパニー）
- ・音声認識入力による車いす受発注管理システム（有限会社ふくもり）
- ・アンケート業務用のデータベース及びRPAの構築（株式会社マルシェ研究所）
- ・バルブ整備報告書作成システム構築事業（ワコオ工業株式会社）
- ・輸出・発注・在庫管理システムの構築事業（株式会社Wakka Japan）

6 補助対象経費

本事業実施に係る市内中小IT企業者^{※1}との間で発生する以下の経費

■ハードウェア購入費及び使用料 ■ソフトウェア購入費及び使用料 ■ソフトウェア開発委託費

※1 札幌市内に本社を有し、IT産業を事業としている中小企業者

7 募集期間

平成30年4月23日～7月27日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

インタークロス・クリエイティブ・センター内 エレクトロニクスセンター サテライトオフィス

TEL:011-814-5021 FAX:011-814-5041 URL:http://www.sec.or.jp

モス物流プランニング株式会社

- 所在地／札幌市豊平区月寒東1条20丁目4-19
- TEL／011-857-1000 ●FAX／011-857-5000
- 代表者／代表取締役社長 森 正廣
- 設立／2004(平成16)年4月28日 ●従業員数／71名
- URL／http://mos-sapporo.com

状況に合わせた最適なプランで高品質な輸送を提供。もっと!大きく!成長しよう!(MOS)をコンセプトに、社員のスキルアップや福利厚生にも注力し、人員不足が深刻な運送業であるにも関わらず、ドライバーが増え続けている人気企業である。

タイヤ保管管理システム(webシステム版) ～業界内で話題の、ありそうでなかったサービス～

鳴りやむことのないFAX受信音にサヨウナラ

物流会社であり、運搬車両・ドライバー・倉庫が揃っていたことから、タイヤ保管サービスを開始し、約2,000台分を取り扱っていた。依頼主は、主にカーディーラーとガソリンスタンドで、春は、夏タイヤを配送して冬タイヤを集荷し、秋は、冬タイヤを配送して夏タイヤを集荷する。1台の車両につき年4回の輸送が必要で、その手続きをすべてFAXで行っていた。つまり、年間で2,000台×4回=8,000回の手続きがあり、そのFAX通信にかかるランニングコストのほか、相当な時間と人手も要していた。

そこで、集荷・配送の受付を専用Webサイトで行うクラウドシステムを開発。クライアントにはIDを付与し、各自でパスワードを設定してもらう。PCだけでなくスマホからも操作できるので、ディーラーの営業担当者が隙間時間に受付できることもあり、非常に好評だ。Web受付の利便性が口コミで広まり、契約数は期待を大きく上回る約6,000台分にまで増加。以前はFAX業務に従事していたスタッフも、現在は輸送を担当できるので、依頼が増加しても十分に対応できている。午前11時までには受付すれば当日中の輸送も可能にするなど、システムに依存することなく、サービス向上にも常に力を入れている。

チャレンジ精神が盲点を突く

システム構築には難解な専門用語が付き物で、作り手との意思疎通には多くの苦労もあったが、改良や機能の追加なども行い、業界全体が必要としていたシステムが完成。稼働後も、シーズン毎にクライアントからヒアリングし、自社の反省点と併せて常に改善を行っている。

システム化によりタイヤ保管サービスが急成長していることもあり、今後は、運営拠点を増やすことも検討されている。同業者から「システム自体をリースしたい」との問い合わせもあり、予想外な形で新たな利益を生み出しそうだ。

タイヤ交換は雪国の文化、 タイヤは大切にお預かりします

業務の効率化に不可欠なため、補助事業に採択されなくても開発することになっていましたが、コストが気がかりでした。補助金のおかげで持ち出し費用を削減できたので、妥協することなく、理想通りのシステムが完成しました。



営業部長
近谷 典博



▲システムの管理者用画面



▲クライアント用の操作マニュアル



▲整然と保管されているタイヤ